

全体総括

○計画期間：平成 21 年 3 月～平成 26 年 3 月（5 ヶ年）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

本計画では、本市清水地区中心市街地の衰退傾向に歯止めをかけ、東西拠点の分断や連携不足の解消等を図るため、「暮らしたくなるみなとまち」「にぎわいあふれるみなとまち」「魅力が湧きあがるみなとまち」を目標に掲げ、その実現に向けた各種事業を、官民連携し一体的・総合的に取り組んできた。

本計画掲載事業のうち、市街地再開発や区画整理等複数のハード整備事業を面的に実施することで、都市機能の拡充や観光・交流拠点の充実、まちなか居住の推進等が図られた。特に、清水駅西第一地区市街地再開発事業や清水駅東地区文化施設、（仮称）こどもクリエイティブタウン整備事業等、“まちの顔”である JR 清水駅周辺に多様な施設が整備されたことにより、まちの魅力・価値の増進や、市民の生活・文化の向上、快適性の推進等が図られた。

また、地域に根付いた伝統ある行事や、新たな着想による市民協働イベント等、多様なソフト事業が実施され、観光・交流機能の向上や、にぎわいの創出、地域への愛着・誇りの醸成等がなされた。これらの諸活動を通じ、各地域主体がまちづくり活動に参画・連携する機運が高まりつつあり、今後の民間まちづくり活動の活発化や連携の強化が期待されている。

以上のように、本計画に基づく各種事業の実施により一定の成果が果たされ、また下記「5.」のように市民評価も改善傾向である等、中心市街地を取り巻く雰囲気は明るい兆しを取り戻しつつある。しかしながら、本市の更なる発展に向け取り組むべき課題は依然として残されており、今後も清水地区中心市街地活性化施策を積極的・継続的に推進する必要性は高いと認識されている。清水地区中心市街地に隣接する三保松原を含む富士山が、平成 25 年 6 月に世界文化遺産に登録され、今後は市内外から多くの観光・交流客がこのエリアを訪れることが予想される。この新たな機会を最大限に活用し、清水地区中心市街地の活性化に繋げることが、より一層期待されている。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した      ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた  
 ②若干の活性化が図られた  
 ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）  
 ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

全 81 事業のうち、39 事業が完了、42 事業が継続実施であり、概ね当初の予定どおり順調に進捗・完了したと言える。

これらの事業を実施することで、上記「1.」に記載のとおり、都市機能や観光・交流拠点の充実、まちなか居住の推進、にぎわいの創出等、一定の成果を果たしたことに加え、下記「5.」のとおり、市民意識も改善傾向の評価を受けている。目標として設定した 3 指標はいずれも達成されていないが、指標によっては計画策定時（基準値）を上回るものや、下落傾向が底を打ち改善に転じているものもある。これらは、本計画に基づく各種事業の総合的・一体的推進による成果であり、清水地区中心市街地は改善の兆しが伺え、若干の活性化が図られたものと言える。

### 3. 活性化が図られた（図られなかった）要因（静岡市としての見解）

大きく活性化が図られなかった前提として、東日本大震災による社会的・精神的影響や、リーマンショックによる経済停滞等、本市を取り巻く外的要因が大きく影響した事実は否めない。東日本大震災を経て、将来予想される南海トラフ地震による津波がより一層危惧されるようになり、沿岸部に位置する清水地区中心市街地への事業投資や居住が控えられる傾向となったことも、大きな要因の一つと推察する。

清水地区中心市街地においては、上記「1.」及び「2.」で記載したとおり、“まちの顔”である清水駅・清水港周辺に多様な施設が複数整備されたことにより、まちの魅力・価値の増進や市民の生活・文化の向上等が図られ、また多様なソフト事業の実施による観光・交流機能の向上やにぎわいの創出がなされる等、個々の事業では一定の成果を上げた。ただ、それら個々の事業を繋ぐ・巡る連携が十分に図られず、地域全体の活性化に繋がらなかったものと推察する。

それら負の要因に対するため、計画期間内に3度の計画変更を行った。特に平成25年7月には、地域資源アニメを活用した3事業を新たに追加し、当該事業を実施することで、にぎわい創出や地域への愛着喚起の推進に寄与した。

### 4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組をふり返ってみて（協議会としての意見）

#### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

#### 【詳細を記載】

本協議会は、行政・関係団体等と連携・調整を図り、清水地区中心市街地活性化の推進を図ってきた。本計画に位置付けられた事業は、各事業主体の尽力により、概ね順調に実施されたと考える。特に、新たな文化・教育・商業等の施設や再開発事業の整備、地域資源を活かしたソフト事業の実施等を着実に推進することで、都市機能拡充やまちなか居住の推進等、中心市街地の活性化に一定程度の効果が発現したものと評価できる。

一方、厳しい社会・経済情勢等もあり、目標として設定した3指標はいずれも達成されなかった。観光交流客数及び歩行者通行量については、計画策定時の基準値も下回る現状にあるが、仮に本計画による各種事業がなされなかったとすれば、更に低い数値となっていたであろうことは、想像するに難くない。これらの指標の改善に取り組むことは、引き続き取り組むべき重要な課題と捉えられる。

本協議会としても、地域資源を活用した活性化を推進するため、平成23年度に清水都心地区エリアマネジメントプロジェクトチームを発足し、平成24年度から地域資源アニメを活用した事業を実施している。今後も当該関連事業に更に磨きをかけ、展開していきたいと考えている。

今後は本計画において残された課題や、この5年間で新たに生じた課題の解消に向け、本計画の推進による効果を活かしながら、時代に即した新たな取組を行い、市民や関係団体等からの十分な理解や参加の下、清水地区中心市街地の更なる活性化を目指すべきである。本協議会としても、その実現に向け引き続き尽力する所存である。

### 5. 市民からの評価、市民意識の変化

#### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

#### 【詳細を記載】

<市民意識調査の実施概要>

実施主体：静岡市広報課

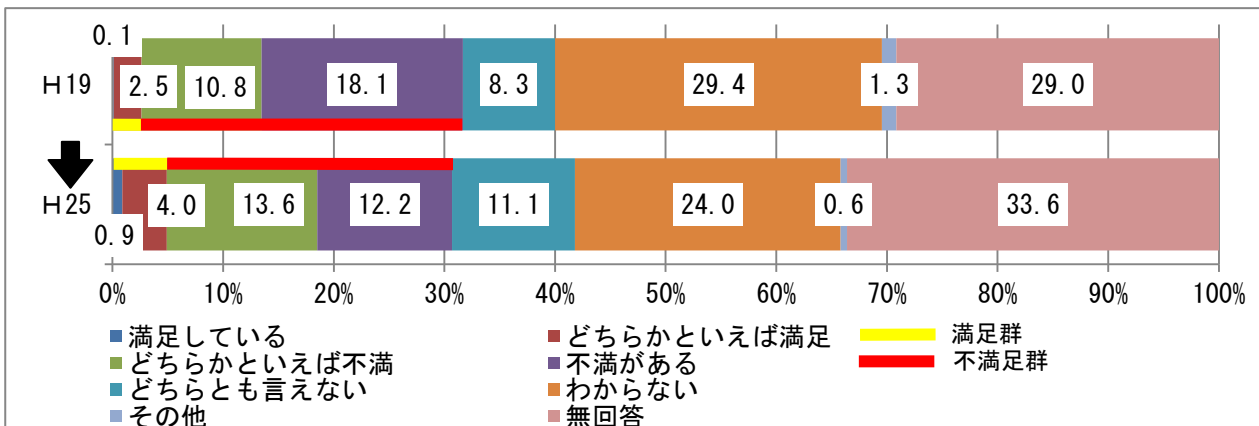
	基準値（平成 19 年度）	最新値（平成 25 年度）
調査日	平成 19 年 8 月 1 日～21 日（21 日間）	平成 25 年 7 月 1 日～22 日（22 日間）
調査方法	静岡市に居住する 20 歳以上の男女 5,887 名を無作為抽出	静岡市に居住する 20 歳以上の男女 5,000 名を無作為抽出
有効回収	2,926 名（49.7%）	2,090 名（41.8%）

○満足度

設 問「あなたは、中心市街地の現状について、どう評価していますか？」

選択肢 ①満足している ②どちらかと言えば満足 ③どちらかと言えば不満 ④不満がある ⑤どちらとも言えない ⑥わからない

「満足している」「どちらかと言えば満足している」の『満足群』は、平成 19 年度が 2.6% だったのに対し、平成 25 年度は 4.9% となり、2.3% 増加した。また、「不満がある」「どちらかと言えば不満がある」の『不満群』は、平成 19 年度 28.9% が平成 25 年度 25.8% となり、3.1% 減少した。清水地区中心市街地への満足度は依然として低いものの、本計画の取り組みにより、僅かながらも好転したと言える。ただし、いずれの年度においても、「わからない」「無回答」の回答が過半数を超えており、清水地区中心市街地の認知・関心度は低いと言える。

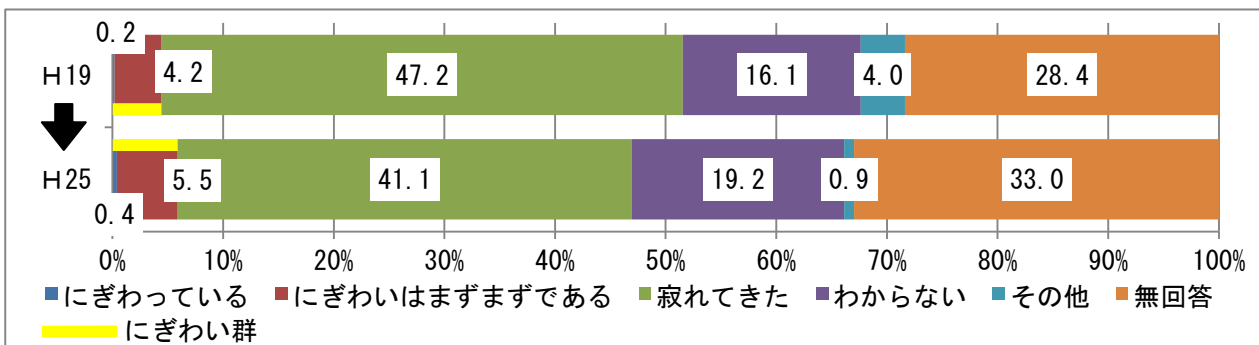


○にぎわいの印象

設 問「あなたは、中心市街地についてどう思っていますか？」

選択肢 ①にぎわっている ②にぎわいはまずまずである ③寂れてきた ④わからない

「にぎわっている」「にぎわいはまずまずである」を合わせた『にぎわい群』は、平成 19 年度が 4.4% だったのに対し、平成 25 年度は 5.9% となり、1.5% 増加した。また、「寂れてきた」との回答は、平成 19 年度 47.2% が平成 25 年度 41.1% となり、6.1% 減少した。清水地区中心市街地のにぎわいの印象は依然として低いものの、本計画の取り組みにより好転したと言える。ただし、いずれの年度においても、「わからない」「無回答」の回答が過半数前後となっており、清水地区中心市街地の認知・関心度は低いと言える。

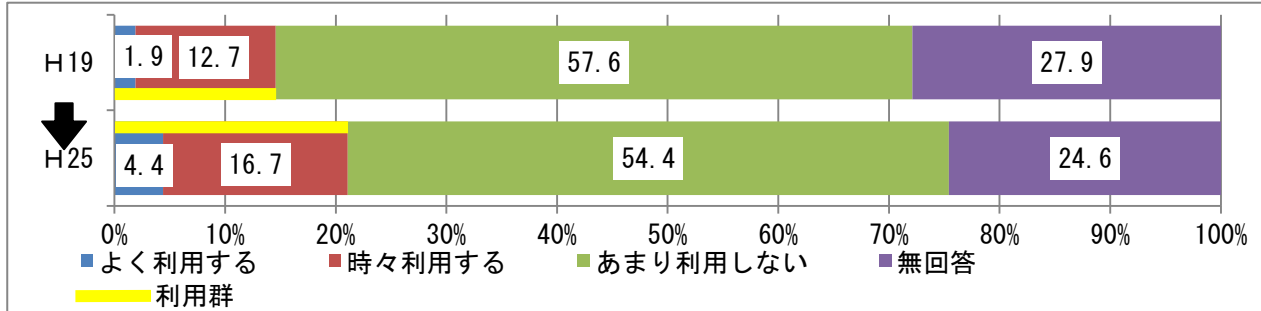


## ○利用頻度

設問「あなたは、中心市街地をどの程度利用していますか？」

選択肢 ①よく利用する ②時々利用する ③あまり利用しない

「よく利用する」「時々利用する」の『利用群』は、平成19年度が14.6%だったのに対し、平成25年度は21.1%となり、6.5%増加した。また、「あまり利用しない」との回答は、平成19年度57.6%が平成25年度54.4%となり、3.2%減少した。清水地区中心市街地の利用頻度は依然として低いものの、本計画の取り組みにより好転したと言える。



## 6. 今後の取組

本市においては、当フォローアップ内容や、平成27年度を始期とする第3次市総合計画の方向性、国による中心市街地活性化施策改正内容（中活法、基本方針）等を踏まえ、新たな中心市街地活性化基本計画を策定し、引き続き『港町・清水』の活性化を総合的・一体的に図っていく。その推進にあたっては、これまでに整備・実施した既存ストックをベースに、新たな機会を最大限に活用する取組を実践し、各事業を密接に連携させることで相乗効果を図っていく。特に、歴史・文化・自然等、地域資源・特色を活かした観光・交流機能等の向上に向けた取り組みが、一層有用であると考え。それらの多様な取り組みを通じ、地区のまちづくりを牽引する人材・組織の育成・連携も図ることで、民間活力を最大限に活用した活性化を一層推進していく。

(参考)

### 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値 (H25)	最新値		達成 状況
				数値	年月	
暮らしたくなるみなとまち (機能・活力の底上げ)	居住人口	6,715人 (H19)	7,484人	6,857人	平成25年9月	B
にぎわいあふれるみなとまち (にぎわいの増幅)	観光交流 客数	728万人 (H19)	800万人	633万人	平成26年3月	C
魅力がつながるみなとまち (つながりの強化)	歩行者通 行量	8,394人 (H18)	8,400人	7,395人	平成25年11月	C

注) 達成状況欄 (注: 小文字のa、b、cは下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

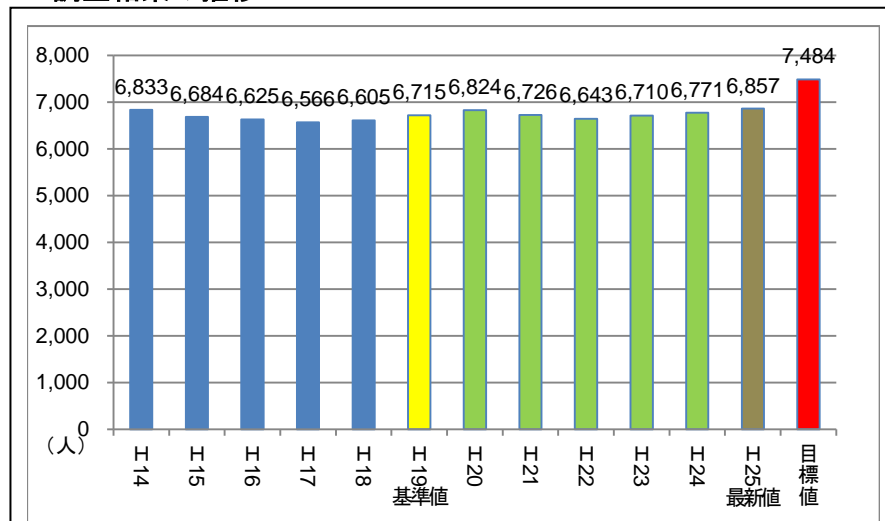
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

## 個別目標

目標「暮らしたくなるみなとまち（機能・活力の底上げ）」

「居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P76～P81 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(人)
H19 (基準値)	6,715
H20	6,824
H21	6,726
H22	6,643
H23	6,710
H24	6,771
H25	6,857
(目標値)	7,484

調査年月：平成 25 年 9 月末時点

調査主体：静岡市

集計方法：住民基本台帳登録人口を基に集計

#### 【総括】

居住人口が示す「暮らしたくなるみなとまち」に向けた事業は、概ね順調に進捗・完了した。主要事業である市街地再開発事業、優良建築物等整備事業が整備された以降は、本指標は増加傾向にあり、機能・活力の底上げに向けて一定の効果が見られるが、最新値は 6,857 人に留まり、目標値 7,484 人には及ばず、目標は未達成である。

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

#### ①. 清水駅西第一地区市街地再開発事業（清水駅西第一地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） 平成 19 年度～平成 25 年度
事業開始・完了時期	平成 19 年度～平成 25 年度【済】
事業概要	文化・商業施設、事務所、住宅等を備えた民間再開発ビルの整備 [延床面積：約31,600㎡ 階数：地上25階、地下1階 用途：商業(2,870㎡)、文化、業務、住宅(134戸)、駐車場(226台)]
目標値・最新値	目標値： 699 人増（①～④の事業の計） 最新値： 785 人増（①～④の事業の計 推計）
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	指標算出根拠 4 事業（①～④）が全て完了し多くの住居が供給された上に、他の各種事業実施により、まちの魅力が向上したため
計画終了後の状況（事業効果）	居住人口増加により、地区のにぎわいの創出や小売販売額の増加等の効果が見込まれる
当該事業の今後について	実施済

#### ②. 清水駅西第二地区優良建築物等整備事業（清水駅西第二地区優良建築物整備事業建設組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業） 平成 21 年度～平成 23 年度
事業開始・完了時期	平成 21 年度～平成 23 年度【済】
事業概要	商業、業務、住宅、駐車場を備えた民間再開発ビルの整備 [延床面積：約 4,662 m <sup>2</sup> 階数：地上 13 階、地下 1 階 用途：商業（525 m <sup>2</sup> ）、業務、交番、住宅（40 戸）、駐車場（40 台）]
目標値・最新値	目標値： 699 人増（①～④の事業の計） 最新値： 785 人増（①～④の事業の計 推計）
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	指標算出根拠 4 事業（①～④）が全て完了し多くの住居が供給された上に、他の各種事業実施により、まちの魅力が向上したため
計画終了後の状況（事業効果）	居住人口増加により、地区のにぎわいの創出や小売販売額の増加等の効果が見込まれる
当該事業の今後について	実施済

③. 清水銀座 45-1 地区優良建築物等整備事業（清水銀座 45-1 地区優良建築物建設組合）

支援措置名及び支援期間	地域住宅交付金 平成 20 年度～平成 22 年度
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 22 年度【済】
事業概要	商業、業務、診療所、住宅、駐車場を備えた民間再開発ビルの整備 [延床面積：約 4,137 m <sup>2</sup> 階数：A 棟地上 4 階、B 棟地上 10 階 用途：商業（507 m <sup>2</sup> ）、住宅（61 戸）、駐車場（13 台）]
目標値・最新値	目標値： 699 人増（①～④の事業の計） 最新値： 785 人増（①～④の事業の計 推計）
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	指標算出根拠 4 事業（①～④）が全て完了し多くの住居が供給された上に、他の各種事業実施により、まちの魅力が向上したため
計画終了後の状況（事業効果）	居住人口増加により、地区のにぎわいの創出や小売販売額の増加等の効果が見込まれる
当該事業の今後について	実施済

④. 真砂町プラザ第 1 地区優良建築物等整備事業（清水真砂町プラザ第 1 地区優良再開発建築物整備事業共同施工者組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業） 平成 17 年度～平成 22 年度
事業開始・完了時期	平成 17 年度～平成 22 年度【済】
事業概要	商業、住宅、駐車場を備えた民間再開発ビルの整備 [延床面積：約 11,884 m <sup>2</sup> 階数：地上 20 階 用途：商業（544 m <sup>2</sup> ）、住宅（92 戸）、駐車場（90 台）]
目標値・最新値	目標値： 699 人増（①～④の事業の計） 最新値： 785 人増（①～④の事業の計 推計）
達成状況	達成

達成した（出来なかった）理由	指標算出根拠4事業（①～④）が全て完了し多くの住居が供給された上に、他の各種事業実施により、まちの魅力が向上したため
計画終了後の状況（事業効果）	居住人口増加により、地区のにぎわいの創出や小売販売額の増加等の効果が見込まれる
当該事業の今後について	実施済

### 3. 今後について

中心市街地の定住人口の増減は、あらゆる社会・経済活動の根幹に影響するものであるため、まちなか居住の推進については、本計画終了後も引き続き取り組むべき課題と考える。本計画に基づき実施した各種事業、特に市街地再開発及び優良建築物整備の主要4事業等の既存ストックを基礎とし、まちの魅力を向上させる取り組みを実施することで、まちなか居住の推進を継続する。また、清水地区中心市街地は、将来予想される南海トラフ地震による津波被害が懸念されるエリアに含まれるため、防災・減災に係る施策を推進し、安全・安心のまちとして定住者の増加を図る。

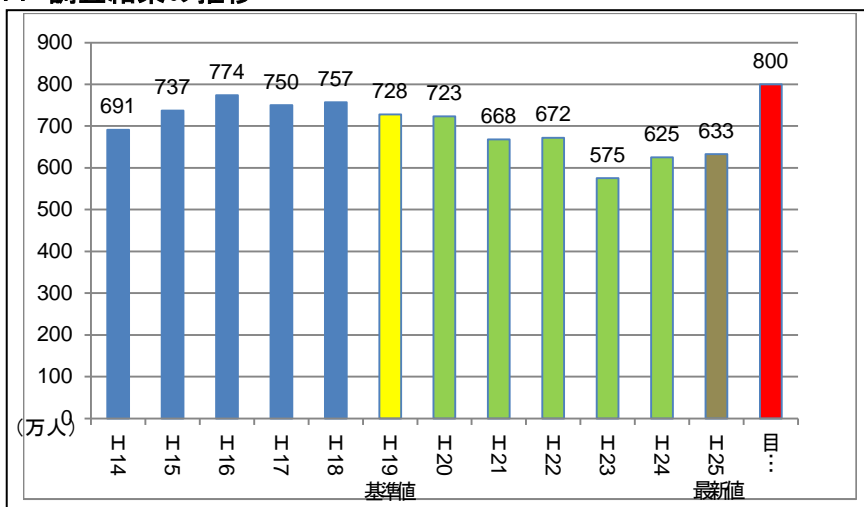


個別目標

目標「にぎわいあふれるみなとまち」（にぎわいの増幅）

「観光交流客数」※目標設定の考え方基本計画 P82～P86 参照

1. 調査結果の推移



年	（万人）
H19 （基準値）	728
H20	723
H21	668
H22	672
H23	575
H24	625
H25	633
（目標値）	800

調査日時：平成 26 年 4 月

調査主体：静岡市

調査方法：各施設への照会

集計方法：清水地区中心市街地域内 14 施設（静岡観光汽船、フェルケール博物館、次郎長生家、清水港船宿記念館「末廣」、清水港海釣り公園、ふじや釣具店、原金つり船、山本釣り船店、エスパルスドリームプラザ、河岸の市、清水マリンパーク、清水駅東地区文化施設、（仮称）こどもクリエイティブブランド（文化発信機能）、江尻地区交流拠点（清水魚市場再整備）、9 イベント（清水マリンフェスティバル、清水みなとまつり、七夕まつり、巴川灯ろうまつり、清水農業まつり、朝市、清水港カウントダウン、清水港マグロまつり、清水アートクラフトフェア）の利用者・参加者の合計

【総括】

観光交流客数が示す「にぎわいあふれるみなとまち」に向けた事業は、概ね順調に進捗・完了した。主要事業である清水駅東地区文化施設、（仮称）こどもクリエイティブタウン整備事業等が完了した以降は、本指標は増加傾向にあり、にぎわいの増幅に向けて一定の効果がみられるが、最新値は 633 万人に留まり、目標値 800 万人には及ばず、目標は未達成である。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 清水駅東地区文化施設の整備（静岡市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業） 平成 24 年度
事業開始・完了時期	平成 21 年度～平成 24 年度【済】
事業概要	老朽化した清水文化センターを中心市街地に移転し、機能更新を図ることにより、文化活動の場と高次高質な芸術文化の鑑賞機会を市民に提供し、しずおか文化を創造する新しい清水の顔・交流拠点となる施設の整備 [延床面積：11,535 m <sup>2</sup> 階数：地上 4 階、地下 1 階 機能：大ホール（1,513 席）、小ホール（292 席）、ギャラリー（500 m <sup>2</sup> ）、リハーサル室、練習室、駐車場等]
目標値・最新値	目標値： 136,161 人増 最新値： 409,513 人増
達成状況	達成



達成した（出来なかった）理由	整備事業が当初予定どおり完了し、音楽・演劇等各種イベント等も順調に開催されたため
計画終了後の状況（事業効果）	地域のにぎわい拠点を創出したことに加え、既存・新設施設（静岡市東部勤労者センター、（仮称）こどもクリエイティブタウン等）と適切な機能分担・連携強化を図ることで相乗効果を高め、市民・来街者の生活・文化の豊かさ醸成に寄与した
当該事業の今後について	実施済み

②.（仮称）こどもクリエイティブタウン整備事業（静岡市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等と一体の効果促進事業） 平成 23 年度～平成 24 年度
事業開始・完了時期	平成 21 年度～平成 24 年度【済】
事業概要	次世代の創造人を育成し、子どもたちに仕事・ものづくり体験等を行う場を提供する施設の整備 [清水駅西第一地区市街地再開発事業施設「えじりあ」内 3・4 階、延床面積：約 1,810 m <sup>2</sup> （3 階 910.55 m <sup>2</sup> 、4 階 899.75 m <sup>2</sup> ）]
目標値・最新値	目標値： 192,002 人増 最新値： 53,345 人増
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	整備事業が完了し、創作・教育等各種イベント等も順調に開催されたが、施設コンセプトが当初想定していたものから変更され、幅広い世代を対象としたものではなくなったため
計画終了後の状況（事業効果）	地域のにぎわい拠点を創出したことに加え、既存・新設施設（静岡市東部勤労者センター、清水駅東地区文化施設等）と適切な機能分担・連携強化を図ることで相乗効果を高め、市民・来街者の生活・文化の豊かさ醸成に寄与した
当該事業の今後について	実施済み

3. 今後について

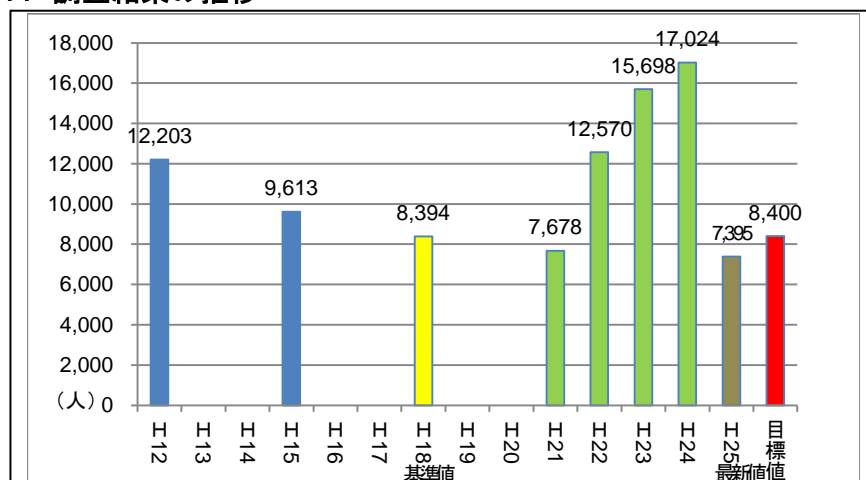
清水地区活性化を推進する大きな軸の一つである観光・交流機能については、本計画終了後も引き続き取り組むべき課題と考える。中部横断自動車道の開通や東京オリンピック開催等を控え、より広域からの観光交流客を呼び込むことは、中心市街地の活性化を図る上で重要な方策である。現計画で整備した観光・交流・文化施設や、歴史ある地域資源や新たな機会を最大限に活用し、市内外から多くの人を呼び込むことで、地域のにぎわい創出の推進を継続する。特に、単体では数十万人規模の集客を誇るイベントもある中、個々の事業の連携・協調を図り、相乗効果を発現させることで、人がより一層集まるまちづくりを推進する。

## 個別目標

目標「魅力がつながるみなとまち」（つながりの強化）

「歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P87～P95 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(人)
H18 (基準値)	8,394
H21	7,678
H22	12,570
H23	15,698
H24	17,024
H25	7,395
(目標値)	8,400

調査名称：静岡市清水地域中心市街地歩行者通行量等調査

調査日時：平成 25 年 11 月 24 日（日）10 時～20 時 ※毎年 11 月最終日曜日実施

調査主体：静岡商工会議所

調査方法：小学生以上の歩行者を対象とし、全 17 地点で調査

集計方法：暮らし拠点やにぎわい拠点に近く、移動性・回遊性の効果を測定するのに適した 5 地点（ホテルシーグランド前（清水駅前銀座）、蝶屋スタイル前（中央銀座）、パルホール前（清水銀座）、港町サンライズ前（エスパルス通り）、次郎長通り商店会事務所前（次郎長通り））の合計

#### 【総括】

本指標が示す「魅力がつながるみなとまち」等に向けた事業は、概ね順調に進捗・完了した。主要事業である再開発事業や文化施設の整備、多様なソフト事業の実施等により、つながりの強化に向けて一定の効果が見られたが、最新値は 7,395 人に留まり、目標値 8,400 人に及ばず、目標は未達成である。なお、平成 22～24 年度には非常に多くの歩行者通行量があったが、これらは本指標調査日に区域内で複数のイベントが開催されたためのものである。多様なイベントの開催等、にぎわい創出の取り組みがなされれば、歩行者通行量はこのように増加するものと言える。

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

#### ① 清水駅西第一地区市街地再開発事業（清水駅西第一地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） 平成 19 年度～平成 25 年度
事業開始・完了時期	平成 19 年度～平成 25 年度【済】
事業概要	文化・商業施設、事務所、住宅等を備えた民間再開発ビルの整備 [延床面積：約31,600㎡ 階数：地上25階、地下1階 用途：商業(2,870㎡)、文化、業務、住宅(134戸)、駐車場(226台)]
目標値・最新値	目標値：1,031 人増（①～④の事業の計） 最新値：1,035 人増（①～④の事業の計 推計）
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	指標算出根拠 4 事業（①～④）が全て完了し、居住人口の増加が図られたため
計画終了後の状況（事業効果）	歩行者通行量の増加により、地区のにぎわいの創出や小売販売額の増加等の効果が見込まれる

当該事業の今後について	実施済
②. 清水駅西第二地区優良建築物等整備事業（清水駅西第二地区優良建築物整備事業建設組合）	
支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業） 平成 21 年度～平成 23 年度
事業開始・完了時期	平成 21 年度～平成 23 年度【済】
事業概要	商業、業務、住宅、駐車場を備えた民間再開発ビルの整備 [延床面積：約 4,662 m <sup>2</sup> 階数：地上 13 階、地下 1 階 用途：商業（525 m <sup>2</sup> ）、業務、交番、住宅（40 戸）、駐車場（40 台）]
目標値・最新値	目標値： 1,031 人増（①～④の事業の計） 最新値： 1,035 人増（①～④の事業の計 推計）
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	指標算出根拠 4 事業（①～④）が全て完了し、居住人口の増加が図られたため
計画終了後の状況（事業効果）	居住人口増加により、地区のにぎわいの創出や小売販売額の増加等の効果が見込まれる。
当該事業の今後について	実施済
③. 清水銀座 45-1 地区優良建築物等整備事業（清水銀座 45-1 地区優良建築物建設組合）	
支援措置名及び支援期間	地域住宅交付金 平成 20 年度～平成 22 年度
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 22 年度【済】
事業概要	商業、業務、診療所、住宅、駐車場を備えた民間再開発ビルの整備 [延床面積：約 4,137 m <sup>2</sup> 階数：A 棟地上 4 階、B 棟地上 10 階 用途：商業（507 m <sup>2</sup> ）、住宅（61 戸）、駐車場（13 台）]
目標値・最新値	目標値： 1,031 人増（①～④の事業の計） 最新値： 1,035 人増（①～④の事業の計 推計）
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	指標算出根拠 4 事業（①～④）が全て完了し、居住人口の増加が図られたため
計画終了後の状況（事業効果）	居住人口増加により、地区のにぎわいの創出や小売販売額の増加等の効果が見込まれる。
当該事業の今後について	実施済
④. 真砂町プラザ第 1 地区優良建築物等整備事業（清水真砂町プラザ第 1 地区優良再開発建築物整備事業共同施工者組合）	
支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業） 平成 17 年度～平成 22 年度
事業開始・完了時期	平成 17 年度～平成 22 年度【済】
事業概要	商業、住宅、駐車場を備えた民間再開発ビルの整備 [延床面積：約 11,884 m <sup>2</sup> 階数：地上 20 階 用途：商業（544 m <sup>2</sup> ）、住宅（92 戸）、駐車場（90 台）]
目標値・最新値	目標値： 1,031 人増（①～④の事業の計）

	最新値： 1,035 人増 (①～④の事業の計 推計)
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	指標算出根拠4事業(①～④)が全て完了し、居住人口の増加が図られたため
計画終了後の状況(事業効果)	居住人口増加により、地区のにぎわいの創出や小売販売額の増加等の効果が見込まれる。
当該事業の今後について	実施済

⑤. 清水駅東地区文化施設の整備(静岡市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業) 平成24年度
事業開始・完了時期	平成21年度～平成24年度【済】
事業概要	老朽化した清水文化センターを中心市街地に移転し、機能更新を図ることにより、文化活動の場と高次高質な芸術文化の鑑賞機会を市民に提供し、しずおか文化を創造する新しい清水の顔・交流拠点となる施設の整備 [延床面積: 11,535 m <sup>2</sup> 、階数: 地上4階、地下1階、機能: 大ホール(1,513席)、小ホール(292席)、ギャラリー(500 m <sup>2</sup> )、リハーサル室、練習室、駐車場等]
目標値・最新値	目標値: 1,725 人増 (⑤⑥事業の計) 最新値: 1,432 人増 (⑤⑥事業の計 推計)
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	指標算出根拠2事業(⑤⑥)が完了し、音楽・演劇等各種イベント等も順調に開催されたが、当初想定した程度の通行量増加が図られず、2事業総体としての目標達成には至らなかった
計画終了後の状況(事業効果)	地域の賑わい拠点を創出したことに加え、既存・新設施設(静岡市東部勤労者センター、(仮称)こどもクリエイティブタウン等)と適切な機能分担・連携強化を図ることで相乗効果を高め、市民・来街者の生活・文化の豊かさ醸成に寄与した
当該事業の今後について	実施済み

⑥. (仮称)こどもクリエイティブタウン整備事業(静岡市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等と一体の効果促進事業) 平成23年度～平成24年度
事業開始・完了時期	平成21年度～平成24年度【済】
事業概要	次世代の創造人を育成し、子どもたちに仕事・ものづくり体験等を行う場を提供する施設の整備 [清水駅西第一地区市街地再開発事業施設「えじりあ」内3・4階 延床面積: 約1,810 m <sup>2</sup> (3階910.55 m <sup>2</sup> 、4階899.75 m <sup>2</sup> )]
目標値・最新値	目標値: 1,725 人増 (⑤⑥事業の計) 最新値: 1,432 人増 (⑤⑥事業の計 推計)
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	指標算出根拠2事業(⑤⑥)が完了し、創作・教育等各種イベント等も順調に開催されたが、(仮称)こどもクリエイティブタウン整備事業の施設コンセプトが当初想定していたものから変更され、幅広い世代を対象としたものではなくなったため、当初想定した程度の通行量

	増加が図られず、2事業総体としての目標達成には至らなかった
計画終了後の状況（事業効果）	地域の賑わい拠点を創出したことに加え、既存・新施設（静岡市東部勤労者センター、清水駅東地区文化施設等）と適切な機能分担・連携強化を図ることで相乗効果を高め、市民・来街者の生活・文化の豊かさ醸成に寄与した
当該事業の今後について	実施済み

### 3. 今後について

まちなか居住の推進、観光・交流機能の増幅、まちなか拠点間の連携・回遊性の向上等、清水地区中心市街地の活性化を推進する各要素の複合的な効果発現の根幹である歩行者通行量の増加を図ることは、本計画終了後も引き続き取り組むべき課題と考える。本計画に基づき実施した観光・交流・文化施設等既存ストックとして最大限活用し、地域に根付いた伝統行事や創意工夫に富んだイベントの開催等のソフト事業も実施することで、広域からの集客を図り、歩行者通行量の増加を推進するよう努める。特に、清水駅周辺や清水港ウォーターフロントの江尻・日の出各エリアにおいて、個々の魅力・個性を活かしたまちづくりを推進した上で、それらを密接に連携させることで各拠点間の回遊性を高め、区域全体の活性化に繋げることが重要である。